

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の理念を掲示し、朝仕事に入る前に各自読み上げている。小布施の職員皆で考えた小布施独自の理念も事務所に掲示してある。	マズローの二ーズ論に基づいた法人の理念が定められており、職員は毎朝申し送り時に再確認し、常に利用者の尊厳を保持しつつ日常のケアを行っている。また、ホームとしての地域との関わりの中で、利用者が自分らしく意欲をもった暮らしが続けられるようにという理念に沿って身近な家族のような支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ケア会議などで、他の施設や事業所と密に連絡をとっており、いつでも見学に来ていただけるようにしている。また、事業所自体が有償ボランティアの活動もしている。	地区の清掃や防災訓練、親睦旅行等に積極的に職員が参加し顔なじみになっている。近所の方が野菜をもってお茶のみに顔を出してくれることもある。また、年1回の小布施マラソンの時にはホームをトイレ休憩所として開放しているので、利用者は応援や交流で参加している。区長からの依頼により、職員が地域の自立高齢者のサロンに参加し認知症予防の講話や体操、健康相談などで地域貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由にホームに訪問していただけるようにし、利用者と実際に接していただき、理解や支援方法を知っていただくよう働きかけている。また、運営推進会議でも認知症について時々話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ターミナルケアや事例検討等で実際に利用者に対する対応などを発表したり意見を求めたりしている。	家族代表、区長、民生委員、近所の方、町福祉課職員、地域包括支援センター職員、理事長または本部職員が出席している。運営状況や利用者の様子の報告のほか、ホームの課題なども相談している。最近では委員の提案から痰吸引機器の購入につながったり、区長からの依頼で地域のサロンに毎月管理者と看護師が参加し講話をするようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の職員や住民のホームの立ち寄りや見学、入居に関して積極的な働きかけ、町あるいは地域密着の他、市町村の情報収集に努めている。入居者のことなど地域包括支援センターとも連携をとっている。	運営推進会議や地域包括支援センター主催の地域ケア会議等で町や他事業所からの情報を得ている。また、独居だった利用者の後見人からの申し立てや利用者家族の健康管理・就労の支援などについて相談するなど、町福祉課や地域包括支援センター職員との連携がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて学んで、日々のケアに活かすよう努力している。夜間のみ防犯のため、玄関は施錠している。	年1回、必ず内部研修で拘束に当る行為や利用者の安全を守るための方法について学習し、日々実践している。転倒防止のため布団を敷いて寝る方が若干名いる。昼間は開錠されていて、玄関等出入口に動物の鳴き声やメロディー音のセンサーを複数使用しており、一人ひとりの利用者の意思を尊重しながら安全なケアに配慮している。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて学び、実践に努めている。管理者から職員にも時々、指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、内部研修で学んでいる。現在一人の利用者が成年後見制度を利用している。最近、他の利用者が成年後見制度を利用する予定があったため、司法書士と協力して進めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の退去、新規利用者の受け入れの際、説明や話し合いにより、安心して利用できるようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人ひとりの利用者とのコミュニケーションをとり、率直に気持ちを表現していただき傾聴に努め、すぐに要望に応じる努力をしている。家族からの意見・要望にもすぐに対応できるように努めている。	利用者とのコミュニケーションの中で、外出先や食べたいものなどの要望があれば出来るだけ早く実現できるよう職員間で検討・準備をし反映している。家族には運営推進会議や来訪時、また、電話やメールなどで状況報告をする際に意見・要望を聞き応えている。9月の敬老会の時には家族同士が顔を合わせる機会もある。ホームの便りや写真を定期的に送付し生活の様子を伝え意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員と良いコミュニケーションをはかり、自由に職員の意見が言えたり、提案を取り入れ、働きやすい環境作り配慮している。	毎月職員全体会議があり、研修と個別カンファレンスを行っている。職員間には話しやすい雰囲気がある。管理者や主任が職員一人ひとりの得意なこと、取り組んでみたいこと等の希望を聞き、それをもとに業務分担を職員会議で決めている。全員が共有し認め合うことで責任感や意欲につながっている。担当者それぞれが業務計画を立て実践し、評価(2~3ヶ月後)、報告書作成、計画修正という一連の過程で積極的に意見・提案をし、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の要望にできるだけ答えて下さる誠実さがあり、率直に話し合いをさせていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講者は研修内容を回覧し、全職員で共有化を図っている。また、代表者もスタッフ全体の各時期に、必要だと思われる研修を与えている。ホームの全体会議でも代表者がスタッフに研修をおこなっている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、ホームに訪問していただくなど、同業者と交流し、互いの情報交換をし、ネットワーク内で研修、交流会にも参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスして安心して、自分らしく過ごしていただけるよう、本人の言葉に傾聴し、動作や表情から心情を察し、素早く対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とともに何度か訪問していただいたり、職員が自宅に訪問し、お話を伺って、できるだけ要望に沿えるように努め、何でも自由に話せる良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネと十分に連絡をとり、情報収集に努め、引き続きケアを継続し、まず必要な支援を十分に行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が感謝の言葉やねぎらいの気持ちを職員に伝えたり、家族の一員のような暖かい馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活の様子、体調の変化の際は、電話か面会に来たときなど、その都度お知らせしている。また、行事の写真など面会の際などに見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やレクリエーション、歌を歌う際回想法執行時、馴染みの人や場所を思い起こして懐かしんでいただいている。また、利用者の友人の面会もある。	友人の訪問や年賀状のやりとりなどを継続できるよう支援している。また、利用者が口ずさむ歌の曲名を親戚の方への聞き取りやネットで調べ繰り返し歌ったり、昔話をよくする利用者には懐かしい土地名が出てくる昔話の紙芝居をつくって一緒に楽しむなど、利用者一人ひとりへの個別ケアを実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での作業やレクリエーション、その他の交流時となるべく一つのテーブルで、みんなが顔を合わせて楽しめるよう工夫している。また、利用者同士の会話にも耳を傾け、必要に応じて職員が間に入っている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルなどの退去があったが、退去した利用者のご家族から何度も暖かい感謝の手紙やお言葉をいただきました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の口にする言葉に耳を傾け、その中から本人の意向をくみ取る努力をしている。	利用者のことばや表情、口づさむ歌等で意向を把握している。難しい場合はスタッフ間でこれまでの生活背景から想いを推し量り、できるだけ寄り添えるよう努力している。また、利用者の楽しみごとを叶えたり、懐かしい郷土食などが味わえるよう支援し意欲につながることを願って日々ケアしている。利用者職員は良好な関係があり、職員が忙しそうにしたり困っていると「そんなに急がなくていいよ」と利用者から声を掛けられ助けていただくこともあるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、入居者の基礎情報を家族から聞き取り、作成し、より本人の希望を叶えられるよう努めている。また、入居前に本人が使っていた物をできるだけ持ってきていただくようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心情の変化、通常と違う言動をした際は、連絡ノートに記入したり、月1回のケアカンファレンスでも状態を把握し職員全員で把握できるようにし、ふさわしい対応ができるように検討し、職員全員に周知させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員みんなでアセスメントシートを作成している。アセスメントシートや個人情報、カンファレンスの結果などをもとにケアプランを作成している。入居者全員のケアプランをファイルにしてあり、職員に回覧している。	居室担当職員のアセスメント、モニタリングを基に全体会議で課題やケア方法を検討し、本人・家族の同意を得てケアプランを作成している。利用者自身が「役割」や「必要とされていること」を実感できるプラン作成を心がけている。見直しは3~6ヶ月で状況に変化があった場合はその都度見直しをしている。また、連絡ノートを使用し、状況の変化やケア方法の変更などについて情報を共有しスタッフ全員で丁寧なケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録に事実の観察項目や言動を記入し、得た情報を記入している。また、日々の変化等は連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役所の手続き代行、病院への付き添い等を行っている。理容院への出張依頼など、一人ひとりの希望にできるかぎり沿えるように努めている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小布施町社協にボランティア団体として登録しており、事業所自体も有償ボランティアとして地域活動も行っている。小布施町の行事に利用者と参加したり、7月には小布施マラソンの応援を行う予定になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢化に伴い受診する機会が増し、家族では対応できない場合が多く、職員がゆだねられ受診の付き添いや主治医との連携を密にとっている。主治医は24時間対応してくれている。	本人や家族の意向に沿って主治医を決めており、協力医に変更する方もいる。協力医には看取り期や緊急時など必要に応じて往診していただけるようになっている。総合病院の定期受診についてはご家族の付き添いで、都合がつかない場合は管理者や職員が付き添い受診状況をそれぞれ報告し合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤だが、看護師が勤務しており、利用者の変化や情報などを伝え、相談し、必要があれば受診や往診依頼をしている。カンファレンスでも情報を共有し、その後の対応など検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年、入院した利用者がおり、職員が度々お見舞いに訪問したり、ドクターからの説明を家族と一緒に受けたりし、安心して入院できるように努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、それぞれの家族や主治医と相談の上、決定している。その際、家族に十分に説明し、納得していただけるよう努めている。今までに8名の利用者のターミナルケアを行った。	利用開始時、重症化した場合や終末期のケアについてのホームの方針を本人や家族に説明している。本人・家族の意向に寄り添い、方針の変更も可能であることを常に伝え、話し合いを繰り返しながら主治医と連携のもと、この1年で2名の方の看取り支援を行った。それぞれの利用者の「緊急マニュアル」を担当者が作成しており、連絡の仕方や対応などが細かく記されており、どの職員でも同じ対応ができるよう心がけている。看取り後、家族からも感謝の言葉をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあり、すぐに取り出せ見れるようになっている。また、全体会議でもターミナルケアや緊急時の対応など学んでいる。実際に急変や事故発生時の対応で、すぐに医療機関と連携が取れた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いのもと、昼間の避難訓練を行った。夜間の避難訓練も職員のみで行った。	年2回火災想定訓練を実施している。昼間の訓練には利用者も参加し、通報、消火、避難訓練が行なわれた。実際にすぐ消防署から消防車や救急車が到着し、初期対応を落ち着いて確実にするよう指導があったという。スプリンクラーなど消防設備が完備されており、日頃から近所の方にも協力を依頼しており、近所の方や区長に利用者の一時避難の見守りもお願いしている。備蓄品も充分準備されている。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに優しく豊かな接し方、敬語を使い会話している。利用契約書にも個人情報の取り扱い項目があり、説明している。また、外部からのお客様を受け入れることも家族に承諾を得ている。	常に尊敬の念をもって利用者に接しており、特に言葉づかいは必ず敬語を使い尊敬の念を伝えるよう管理者は指導している。日常動作の声掛けは一人ひとりに丁寧に依頼する言い方で、その都度利用者は「ありがとう」と言って次の動作に移っていた。訪問当日もホームのあたたかい雰囲気を感じる事ができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を否定せず、最後まで傾聴している。苦情や不満など表現しにくいことも日頃から良いコミュニケーションをとり、言いやすい関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはおおよそ決まっているが、一人ひとりの体調、希望に沿い、食事時間、メニュー、1日の行動スケジュールを柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日中、パジャマでいることのないよう、日中は更衣していただいている。朝、自分で洋服を選んでいる利用者もいる。また、体調不良などで、やむを得ず日中パジャマでいる場合は、家族に承諾を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が色々な役割を持ち、食事の準備や配膳、盛り付け、食器の片付けなどで参加している。参加できない方も、食事の準備を見て楽しみにしている。時々、手作りおやつなどで利用者も参加して楽しんでいる。	利用者の希望の献立が取り入れられ、近所の方からの野菜や敷地内の栗が使われ季節感のある食事が提供されており、誕生会などで特別メニューも楽しめる。また、味付けや盛り付けなどで利用者も参加している。ある男性利用者が「職員が栄養を考えて作ってくれた食事は身体づくりに必要で、朗らかな気持ちで食べることが大切だ」と職員への感謝も込めて話していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立と、食欲低下や充分栄養を取り入れられない方については、食事量・水分量をチェックし、摂取しやすいように刻み食、ミキサー食、好きな食品など提供し、補うよう調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、口腔内のトラブルの有無をチェックし、看護師とも連携をとり適したケアができるよう、スタッフ間で情報を共有している。必要時、家族に連絡した後、歯科受診している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう、定期的にトイレ誘導し、ゆとりある仕方で自尿を待つよう支援している。オムツの使用を減らすため、排泄状態に合わせた、リハビリパンツや尿取りパッドの選択と当て方の工夫をしている。	できるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。失敗があった場合は換気、掃除や洗濯など丁寧に行ない利用者の過ごしやすい環境保持に配慮している。トイレ介助の方法、リハビリパンツや尿取りパッドの当て方は連絡ノートに細かく記され全職員が共有し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排泄パターンに合わせ、看護師と相談のもと水分の調整、下剤の使用や乳製品を毎日飲用するようにしている。また、運動不足解消に軽体操、レクを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自、定期的に入浴し、汚染時や皮膚トラブルがある方は、なるべく頻繁に入浴・清拭するように配慮している。曜日や時間は決めずに入浴担当者が勤務表や利用者の状況をみて対応している。	利用者の希望に沿って週2回以上の入浴ができるよう支援している。介助を必要とする方は若干名で経験の浅い職員は経験のある職員と組んで、安全にゆったりとした入浴となるよう事故防止に努めている。体調に合わせて足湯などを行ない、季節ごとにリンゴ、ゆず、薔薇の花などをお風呂に浮かべ、また、入浴剤を使用することで楽しみとなるように工夫したり、肌の乾燥予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や、スタッフが観察して休息が必要と思われる時は、ホールのフロアに長座布団を敷いてあり、いつでも休める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルがあり、職員全員が閲覧できるようにになっている。症状の変化があった場合、看護師に報告し、ドクターと相談の上処方してもらっている。薬が変わった場合、連絡ノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや片付け他、日々の生活の中で、必要な仕事の手伝い、秋には栗拾いや庭掃除、草取りなど各自できる範囲で行っている。日々のレクリエーションを行ったり、外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、時々散歩にでかけたり外食もしている。また、出かけた時の写真を家族が面会に来た時に見ていただいている。今年は善光寺の御開帳にバスを利用して利用者とお出かけた。ヒューマンヘリテージ通信に写真を載せて月1回家族に送っている。	ホーム周辺の散歩のほか、月1回以上は4人ぐらいのグループで外出している。利用者の希望、身体機能や体調に合わせてバスや車で移動し、菜の花、紅葉、神社、寺、温泉地の足湯などに出かけておりその時のスナップにも明るい表情が見られる。また、景色や人々との交流、食事を楽しめるので近くの回転寿司や小布施ハイウェイオアシスなどへ度々出かけている。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは、職員が管理している。高額な買い物などは、本人または家族に承諾を得ている。現在は自分の財布を持っている利用者が一人おり、お出掛けした時など自分の財布から出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を利用者が自分で色を塗ったり、一人ひとりが一言書いて家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖やエアコンも完備しており、適度な温度・湿度管理をしている。リビングも落ち着いた感じになっており、壁には季節を感じさせる貼り絵や写真を飾っている。ホールの電気の明るさも調節できるようになっている。	玄関に入ると吹き抜けの天井になっており広々とした明るいフロアとなっている。食堂のすぐ横にキッチンスペースがあり、利用者と話しながら調理することができ、廊下に面してオープンになっているので開放感がある。奥の畳スペースにはソファやベットの置いてあり、休養もできる。玄関横にオープンカウンターの事務室があり、2階の多目的室は会議や家族来訪時の交流スペースとして利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1つのテーブルを囲み、楽しく会話したりテレビを見たりレクリエーションを楽しんでいる。また、休みたい人はホールの長座布団で横になって休んだりしている。居間はある程度パーティションで仕切れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレ、洗面所が設置されている。また、入居前までの生活用品が持ち込まれ、その人らしい居室となっている。温湿度計も設置しており、冬は加湿器を用意している。	1階に3室、2階に6室あり、何れもベランダ付きで、エアコンやトイレ、洗面台が設置されている。ほとんどの方はベットで、体調に合わせて布団を使用している方もいる。利用者は使い慣れた家具や好きな本、家族との写真などを置いていた。壁には誕生日に職員から贈られた写真入りのメッセージカードや感謝状が張られていた。安全で過ごしやすように担当の職員が環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器やお盆を拭いていただいたり、洗濯物をたたんでいただいたり、毎日の仕事にできる限り携わっている。また、部屋の名札やトイレの張り紙などで、できるだけ本人が場所を探せるようにしている。		